

3.13.2アントレプレナー支援室

室長（兼務） 池山 均 ほか1名

地域発ICTスタートアップの創出

■概要

次世代のより豊かで多様な情報通信サービスを実現するため、独創的な技術のシーズを有し、かつ、資金調達・販路拡大が困難なICTスタートアップに対し、ICTスタートアップの事業化に役立つ情報及び交流の機会を提供することにより、ICTスタートアップの有する有望かつ新規性・波及性のある技術やサービスの事業化などを促進して、グローバルに活躍するICTスタートアップの創出を目指している。

1. イベント等の開催

ICTスタートアップが、工夫を凝らした新規事業を発表しビジネスマッチングにチャレンジする「起業家万博^{*1}」や、将来のICTスタートアップの担い手となる高専生、大学生等の若手人材の発掘・育成を目的として、「起業家甲子園^{*2}」を開催した。

また、ICTスタートアップに対する展示会への出展機会の提供や地域の「起業家応援団^{*3}」と連携したイベント等の開催により、地域のICTベンチャーの事業化促進、発掘・育成を支援している。

2. インターネット上での情報提供

Webサイト「ICTスタートアップ支援センター」<<https://www.nict.go.jp/venture/>>において、NICTの支援施策の紹介など、ICTベンチャーに対して有益でタイムリーな情報を収集・提供している（図1）。

■平成30年度の成果

1. イベント等の開催

(1) 起業家甲子園

平成31年3月11日に、丸ビルホール（東京・丸の内）において開催した。当日は、全国の大学や高専のイベント等から選抜した学生チーム11チームによるプレゼンテーションが行われ、総務大臣賞にチームまごころポスト「まごころポスト」、審査委員特別賞に九州大学「Healtz」が選ばれた（図2）。

(2) 起業家万博

平成31年3月12日に、丸ビルホール（東京・丸の内）



図1 ICTスタートアップ支援センター

において開催した。地域の起業家応援団から推薦を受けたICTスタートアップ企業及びNICT発ベンチャー企業の11社によるプレゼンテーションのほか、会場内に設けた展示ブースでは、ビジネスマッチング及び製品・サービスのPRが行われた。また、コンテストでは、総務大臣賞にメドメイン株式会社「DeepLearningによる病理画像診断支援ソフトウェア「PidPort」」が、審査委員特別賞に株式会社ポーラスター・スペース「超高精度スペクトル計測による農業課題解決型事業」が選ばれた（図3）。

*1 「起業家万博」は、情報通信研究機構の登録商標。

*2 「起業家甲子園」は、情報通信研究機構の登録商標。

*3 全国各地での連携イベントを企画・運営するほか、地域のベンチャーコミュニティの核として同地域におけるベンチャー・エコシステム作りに向けた諸取組を実施している個人、団体等



図2 発表者との記念撮影（起業家甲子園）



図3 発表者との記念撮影（起業家万博）



図4 展示会（CEATEC JAPAN 2018）



図5 展示会（TechCrunch DISRUPT SF 2018）



図6 シリコンバレーブートキャンプ

表1 イベント等の開催状況

イベント・セミナー		開催件数	参加人数(延べ)
開催件数及び参加人数の合計		39件	6,837名
内訳	《起業家甲子園》	1件	230名
	《起業家万博》	1件	248名
	《地域連携/大学・高専イベント等》 地域支援機関、全国の大学・高専等と連携して、ビジネスプラン発表会等を開催し、地方発の有望なICTスタートアップ、若手起業家候補生を発掘・育成	35件	2,705名
	《展示会》 大規模展示会において、ビジネスPRによるビジネスマッチング	2件	3,654名

(3) 展示会への出展

平成25年度から平成29年度までの起業家万博ファイナリストのうち15企業に対して、「CEATEC 2018（平成30年10月）」での出展機会を提供し、展示ブースにおいて、各社の製品・サービスのPRが行われ、来場者とのビジネスマッチングが図られた（図4）。

サンフランシスコで開催された「TechCrunch DISRUPT SF 2018」において、平成30年3月の起業家万博に出場した株式会社エイシング社（総務大臣賞受賞）、テスラシート株式会社（NICT発ベンチャー）及び起業家甲子園に出場した大阪大学「G+」チーム（総務大臣賞受賞）の出展機会を提供した。商品・サービスを大いにアピールし、国籍等を問わず多くの方が立ち寄り関心を示していた（図5）。

(4) ICTスタートアップの発掘・育成

地域の有望なICTスタートアップや起業家の卵を発掘・育成するため、地域の起業家応援団と連携し、キックオフセミナーやブラッシュアップセミナー等を開催して、地域連携イベントの充実を図った。また、起業家甲子園の出場予定者にグローバルマインドを身につける機

会を提供するため、米国西海岸（いわゆるシリコンバレー）において、現地のICTベンチャーとの交流や、現地で活躍するベンチャー起業家等からの講義を含む、「シリコンバレー起業家育成プログラム」を実施した（図6）。

2. インターネット上での情報提供

「ICTスタートアップ支援センター」において、前年度に引き続きICTスタートアップに有益な情報提供の充実を図るべく、全国各地で開催した地域連携イベント等の状況を速やかに配信したほか、起業家甲子園、起業家万博のビデオライブラリ等を配信し、情報内容の一層の充実を図った。また、Facebookを活用したタイムリーな情報発信も行った。

3. アンケート調査及び意見の反映等

イベントごとに行った発表者へのアンケート調査では、回答者から約99%の肯定的な回答を得た。アンケートから得られた意見・要望については、地域の起業家応援団からの要望とともに、支援団体相互の連携を強化するための「NICT地域起業家応援団会議」等に活用した。